

令和6年度物部川清流保全推進協議会総会 議事要旨

日時：令和6年8月27日（火）10:00～12:10

場所：香美市役所 3階会議室（会議室301、会議室302）

（香美市土佐山田町宝町1-2-1）

出席者：【委員（代理出席含む）】 16名

【事務局】 県自然共生課 4名

【その他】 オブザーバー：県河川課 2名

1 冒頭

- ・ 新任委員の紹介・挨拶
- ・ 過半数の出席による会の成立を報告
- ・ 「審議会等の会議の公開に関する指針」に基づき、審議内容をホームページで公開することを報告

2 議題

- (1) 令和5年度物部川清流保全推進協議会の取組について（報告）
- (2) 令和6年度物部川清流保全推進協議会の取組について（協議）
- (3) 活動の中長期目標について（協議）
- (4) その他（意見交換・情報共有）

【議題1、議題2に対する概要】

委員	<p>●水環境勉強会の成果とりまとめについて</p> <p>市民の方が議論をできるような素材を提供することが重要。問題点を暮らしとリンクさせ、何を考えていかないといけないのかを明確にしていくのが第一歩。市民の方を巻き込むことを展開していただきたい。</p>
事務局	<p>ご意見をいただきながら、市民の方にわかりやすく提供していきたい。</p>
会長	<p>勉強会の概要をホームページで公開するという話だったと思うが、各勉強会で話題提供者が用意した資料は公開しないのか。市民の方が勉強する素材になるので、公開した方が良いのではないか。</p>
事務局	<p>各講義の内容をまとめたダイジェスト版をホームページに掲載する予定。実際の講義資料は相当なボリュームがあるため、各講義ごとに内容を凝縮して作成したダイジェスト版を活用する。</p>
会長	<p>勉強会の中で提供された話題や資料は大学生のアクティブラーニングの授業などでも活用できる。有効に使っていただけることを意識した公表をお願いしたい。</p>
委員	<p>●「良い子は川で遊ばない」の解消について</p> <p>子どもたちが川に来る機会を作る中で、まず意識しているのは安全性の確保。安全性が確保できないと親御さんや教育委員会に対して安心感が出てこない。</p>

委員	<p>また、昨年度実施した物部川フォーラムではマイクロプラスチック問題をテーマに取り上げたが、大事な点は、実際にごみを拾いに行くという行動につなげていくこと。専門的な話を聞くことも大事だが、関連する取り組みを実際に体験することで川に対する意識の変容にもつながる。</p>
会長	<p>行動という結果から効果を測定することは重要。ただし、環境教育というのはすぐに効果が出ないものも多いため、教育の成果としての行動と環境改善の成果を二段階で考えた方が良いと思う。</p>
会長	<p>盆にべふ峡に行ったが人が少なかった。涼しくて良い場所なのに人が集まらない。物部川に人が集まらない理由を考えなければならない。遊泳エリアの整備などの遊び場の整備を考えても良いのではないか。</p>
委員	<p>べふ峡の閑散についてはべふ峡温泉の休館の影響が大きい。物部川の遊び場としては日ノ御子公園に力を入れており、バンガローの改修も予定している。家族連れを意識するとトイレの整備も重要であるし、川で遊ぶといってもバーベキューなど多様な遊び方がある。川本来の姿を意識した工事などにより、昔の川がよみがえればそれも売りになると考えている。</p>
会長	<p>中下流部でも、アユ釣りだけでなく、子どもが遊べる場所について考えていけないといけない。情報戦略だけでなく、場所の整備も含めた議論が必要だと思う。</p>
委員	<p>川遊びといえば、涼しくて水がきれいな上流に目が向きがちだが、実際は下流ほど良い。水温が温かく、川の生き物の豊かさが圧倒的に多い。また、アクセスも良く流域3市の子どもたちが自転車で行ける。仁淀川や物部川と比べて川で遊ぶ子どもの数が少ないが、物部川は川の規模がちょうど良い。物部川ならではの利点を生かさないといけない。</p>
委員	<p>小さい頃から、自分の目の前の川で親しむことで川のいろいろなことが分かる。川遊びを防災教育の一環として取り上げる必要があると思う。</p>
委員	<p>親御さんや学校が物部川に子どもを行かせない理由としては、過去に発生した死亡事故の影響があると思う。物部川に人が来ていないことはないが、人が集まっている場所はトイレがある場所や橋の下。そういう、人が集まりやすい場所はある。</p>
会長	<p>トイレの整備などきめ細かい対応が必要になるということ。遊び場としての魅力向上を今後は考えていきたい。</p>
委員	<p>人が集うという環境の中で重要なのはトイレと駐車場。維持管理は大変になるが整備の必要性も考えていきたい。</p>
会長	<p>箱物整備になるので維持管理も含めたお金の問題もあるが、そういう方向で環境整備を考えていけば良くなるのではないかと思う。委員の意見のとおり、橋の下は日を遮ることができるため人が集まりやすい。仁淀川には河畔林があるが物部川にはない。日陰を作るということも必要かもしれない。</p>

委員	親子教室などを実施しても一過性で続いていかない。親を含めた大人にも川の安全に関する知識技術がなく、危険回避で川に入れない。知識技術がある人の高齢化も問題。
会長	広報戦略、イベント等々の中で地道に繋いでいくしかないと思う。

【議題 3 に対する質疑・意見概要】

委員	<p>●物部川の指標（環境ものさし）について</p> <p>清流モニタリング調査における、水生生物の種類数については調査地点が点になっている状況。種類数を上げようとするなら、長い区間を丁寧に調べないといけないため、そこにかかる労力も考慮すると、現状は ASPT 値に注目して評価していくのが良いと思う。</p>
会長	清流モニタリング調査に限らず、水質などの数字で評価できるものについてはできるだけ目標値を設定できるように努力していただきたい。
委員	問題になっている水温の高温障害について、指標を追加してはどうか。またダム の堆積問題についても指標があると良いのではないかと思います。
会長	高温障害については指標に入れるしかないと思う。ダムの堆積問題については、 ダムのみならず河川構造物に関わる指標を考える必要があるかもしれない。
委員	物部川の特徴は長期濁水。細かな粘土などが常に流れているため、水が澄むのに 時間がかかる。
委員	瞬間的な濁度だけでなく、濁度 10 以上の日数を調べるなどしてはどうか。デー タは過去のものから把握しているので提供可能。
会長	<p>濁度の長期化については濁水対策検討会でもデータを持っているし、濁度という 一言だけではなく泥の問題も含めて、濁水対策検討会の事務局を中心に検討してい きましょう。</p> <p>高温障害の話については早急に指標に入れていかないといけない。他にも、今日 いただいた意見を参考に目標指標の改良を進めていく方向性をまとめとしたい。</p>

【その他】

委員	<p>●かみんぐ Future つなぐ森事業について</p> <p>市民参加が重要と考える。水辺林の適正管理について、市民が貢献するための素 材としてとても良いと思うため、市民が参加できる仕組みを協議会としても考えて いく必要があるのでは。森だけでなく川や海の取組も同様にそういったスタンスで 展開していく必要があると思う。</p>
委員	かみんぐ Future つなぐ森事業自体は、市民というよりもどちらかという と森林経営が成り立ちにくいため放置されがちな場所、川近くの溪畔林などに広葉樹を植 え、少しでも腐葉土を増やしていくことによる濁水対策をねらいとした森林整備。

<p>会長</p>	<p>ただ、市民との森への取組については努力していきたい。これまで積み重ねてきた取組なども一部の市民だけが参加するのではなく、幅広く裾野が広がる形を考えていきたいと思う。来年の「あんぱん」の放送に合わせて、やなせ先生に三嶺のキャラクターや森のキャラクターを作ってもらっている。そういうものも活用しながら考えていきたいので、何かアイデアをいただければと思う。</p> <p>森林整備に関わらず、役所の事業への市民の参画が求められるということ。水辺林整備は別として、防鹿柵設置のボランティアなど森林の事業は比較的市民参加が進んでいると思う。むしろ土木が行っている河川事業の方が市民参加が遅れているのではないと思う。いずれにしても流域活動に市民が参加できるシステムの構築に向けて行政とNPOが連携して検討いただけるとありがたい。</p>
<p>委員</p>	<p>●物部川下流域におけるアユの生息状況について</p> <p>今年のアユの遡上数は近年で一番少ない30万匹。また、5月の季節外れの大雨と6月下旬の出水による濁水や7月下旬からの濁水により、20万匹ほどのアユが減耗した。漁獲による減耗は2、3万匹程度のため、ほとんどが濁水と濁水による減耗であると考えられる。今年は7月下旬から雨が降らず、上流からの放水による水の供給が満足に得られない状況であった。それに伴う水温の高温障害も大きな問題。アユの生存の限界は30℃と言われており、31℃を超えるといつ死んでもおかしくない状況になる。今年はそんな生存の限界の水温がほぼ1ヶ月近く続いた。発電事業者も含め、上手に水を貯めて上手に流すということを検討していく必要がある。遡上したアユを調べたところ、今年は12月中旬から1月生まれのものが多かった。本来は11月中旬生まれのものが多くなるころ、早く生まれても生き延びる率が低い。実は和歌山から西の太平洋側が同じ状況にあり、海の方でも赤岡のバッチ網の漁獲量が、特に昨年暮れぐらいから今年の春先の一番獲れる時期に近年にない最悪の状態。その時期は当然アユの稚魚もドロメに混じっているわけで、単に高水温や沿岸の水温のみならず、その時期に海に十分な栄養が供給されていないのではないかと懸念もある。</p>
<p>委員</p>	<p>●水温の高温障害、濁水について</p> <p>高温障害に関しては第一次産業の農業関係も苦労している。白米を作る割合が非常に多い地域だが、水が必要なときに水が回らないため、直近5年で1等米はゼロで2等米、3等米がほとんど。漁業のみならず、農業関係者としても高温障害は非常に影響がある。</p>
<p>会長</p>	<p>高温障害は川の中の話だけではないということが分かった。濁水対策検討会の方で将来的にダム群の改良をする等々の提言を出し粛々と進めていくが、その間にはダムの弾力的運用など、できることには取り組んでいかねばならない。</p>
<p>委員</p>	<p>水量の問題については早急に対応していかないと、人間でいう命に関わる状況にある。3市にもご理解をいただき、一緒に考えていただきたい。ダムの土砂浚渫など長期的なことは濁水検討会で一定方向性が出ているが、今どうするか、明日どうするかということを検討して取り組んでいただきたい。</p>
<p>会長</p>	<p>水を上から流すということのみならず、関係市町村、諸団体の努力が必要だということ。指標化は難しいかもしれないが、方向性を少し考えていけると良いと思う。</p>

委員	<p>●代かき濁水対策について</p> <p>南国では浅水代かきを積極的に実施しているが、香南市ではできておらず、調べたところ父養寺、深淵、上岡、吉原の地区が濁水を物部川に全部垂れ流しにしていた。来年は立て看板などを設置するなどの対策が必須で、改善に向けて土地改良区もバックアップし濁水対策に取り組むので、香南市も目的を明確にし対策に取り組んでほしい。</p>
委員	<p>香南市で何ができるのかについて持ち帰って協議をしたい。</p>
委員	<p>行政として知恵を出すためには、まずは実際に現場に足を運んで、どんな人がどんなときに濁水を流しているのかを知ることからだと思う。水を使う側も当たり前ではないということを自覚してもらわないといけない。行政が指導して、農協も含めて協力をお願いしたい。</p>
会長	<p>行政が声かけをして、土地改良区や農協などみんなで取り組む必要があるということだと思う。みんなで頑張っていたきたい。</p>

閉会